

# 令和5年度 学校評価のまとめ

松山市立湯山中学校

## 1 はじめに

本校は山間に位置する小規模校であり、その特徴を生かして、学校・家庭・地域が一体となって、特色ある学校づくりに取り組んでいる。教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」の実現を目指して、豊かな人間性や生きる力を育む教育活動を進めている。

学校評価は、本校の教育活動の成果を検証し、必要な支援や改善について検討する資料であり、それにより、生徒がより良い教育を享受できるように、学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上を図ることがねらいである。

なお、アンケート結果を分かりやすくするため、肯定的回答（とても思う、やや思う）と、否定的回答（あまり思わない、まったく思わない）を、それぞれ合計して分析する。

## 2 結果と考察

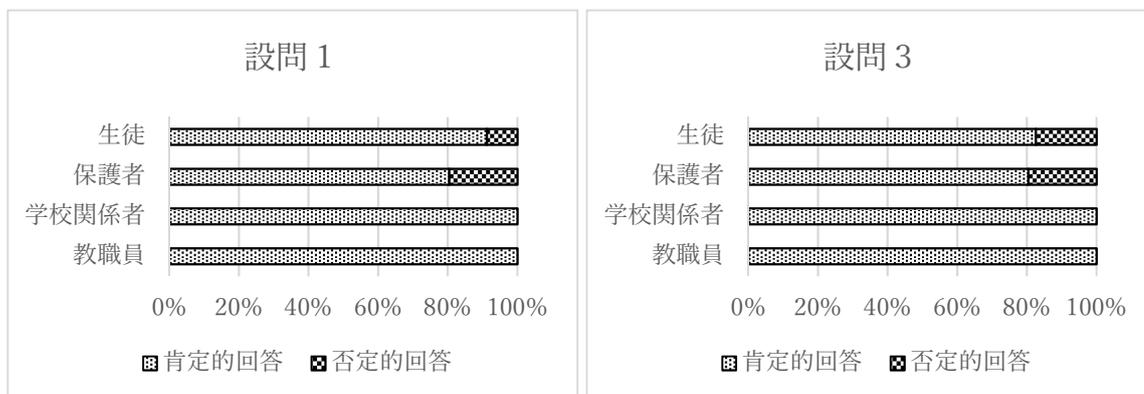
### ① 教育課程・学習指導について

設問1 学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

学校の授業では、学習内容の理解が深まったり、友達と学び合ったりすることができて、うれしいと感じられる。（生徒）

設問3 学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

学校では、学力や体力の状況に合わせた授業を行っている。（生徒）



学習指導に関する質問において、全体として肯定的回答の割合は高いものの、否定的回答も20%近くある。学習内容の理解が十分に深まっていない生徒や、学び合いを苦手とする生徒も一定数おり、共に学ぶ喜びと分かる喜びやできる喜びは必ずしも同一ではない。様々な授業形態や指導方法について考え、学びを深め合える授業づくりと個に応じた指導や個別学習の充実のバランスを図っていくことが大切である。

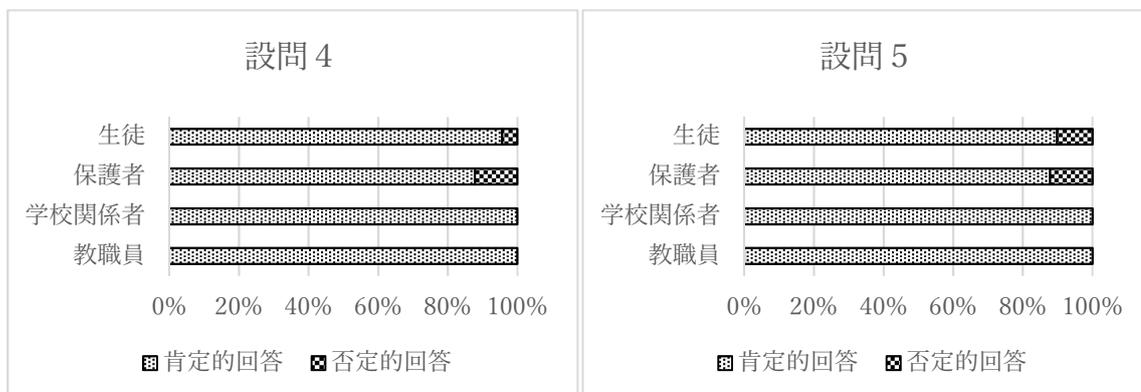
### ② 人権・同和教育、生徒指導について

設問4 学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。（教職員、保護者、学校関係者）

自分には、いじめや差別を許さない気持ちがある。(生徒)

設問5 学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

「学校の決まり」などを意識し、だれもがより良い学校生活が送れるよう心がけている。(生徒)



人権・同和教育と生徒指導に関する質問では、他の設問よりも肯定的回答が高かった。特に生徒指導に関する設問が昨年よりも肯定的回答が向上した。

学校では、特別の教科道徳の時間をはじめ、生徒会の取組などを通して、いじめや差別のない人間関係作りに取り組んでいる。人権作文や人権集会の取組を毎年ご参観いただいております。こうした取組が高い評価につながっていると考えられる。

「生徒会申合せ事項」(いわゆる学校のきまりに相当する)については、毎年度、学級活動や生徒協議会、三者合同検討委員会を経る形で見直しを行っている。

今後も、生徒が主体的により良い人間関係作りや差別の解消、学校生活の向上に取り組めるよう指導・支援を継続していきたい。

### ③ キャリア教育について

設問6 学校は、自分の進路や生き方、将来の夢について考える生徒を育てている。(教職員、保護者、学校関係者)

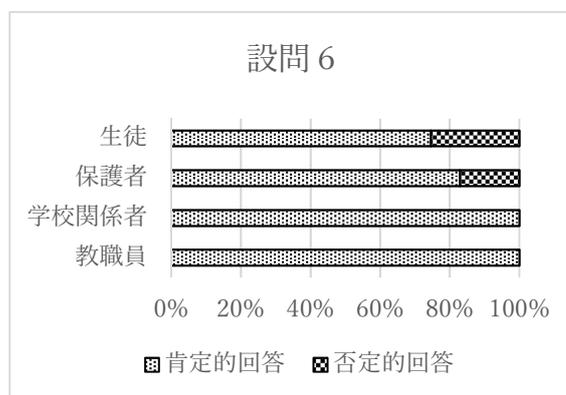
自分の進路や生き方について考えている。(生徒)

キャリア教育に関する質問において、生徒からの肯定的な回答が80%を下回っている。

しかし、本校では、生徒が「自分の進路や生き方について考え」る機会を多数設けている。

例えば、毎週1時間ある道徳科の授業では、「他者とのかわりの中で自分らしく生きていくにはどうすればいいか」と考えている。各教科においても、現代社会の課題等とどう向き合えばいいかを考える機会は相当数ある。

また、総合的な学習の時間では、SDGs学習(全校)、防災や環境保護学習・職業体験(1年)、職場体験学習・「働き方」「人生設計」「物づくり」等に関する講座での学習(2年)、福祉体験・パラスポーツ体験・進路情報の収集・自己理解のため



の面接練習（3年）を行っている。

入学式や少年の日集会・記念行事、卒業式・卒業プロジェクトも、該当学年の生徒にとっては学校生活の節目を自分たちの成長につなげる重要な行事であり、キャリア教育の一環となっている。

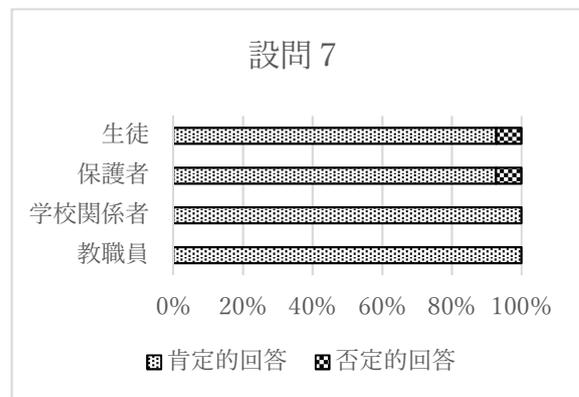
これらの活動を実施することがキャリア教育であると捉えているが、各活動が自分の生き方に関する深い学びとなるよう指導を工夫する必要がある。また、これらの活動のうち、主な活動については、キャリアパスポート（小学校から高校まで使用）にその記録を蓄積しており、それを有効活用して、キャリア意識を育てていくことも必要である。

#### ④ 安全管理について

設問7 学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境作りに努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

学校は、交通安全やけがの防止など、安全な環境づくりや指導を行っている。（生徒）

安全管理に関する質問では、昨年よりも更に高い肯定的回答が得られた。日常的に安全管理に努め、啓発活動を行ってきた成果が現れている。今後は、自転車安全教室を実施するなど、地域から認められる安全意識の高揚を目指して、残っている不安を0に近づけたい。



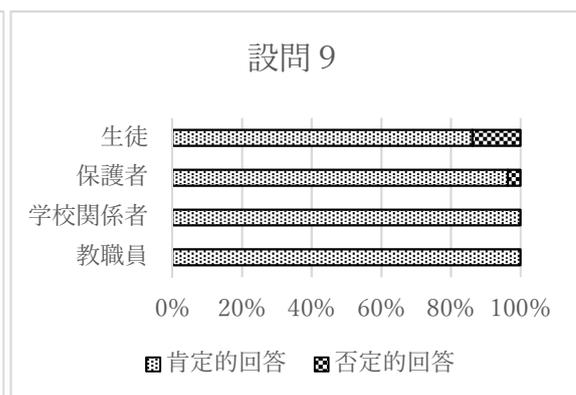
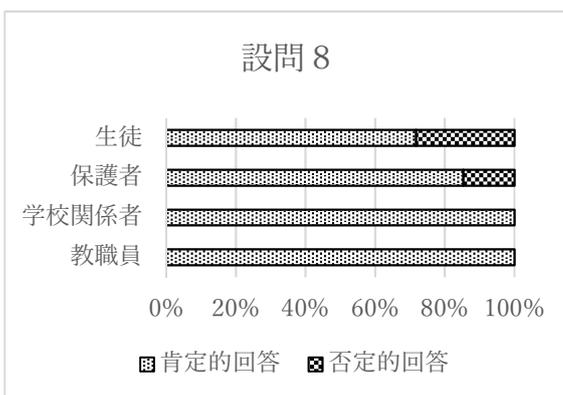
#### ⑤ 保健管理について

設問8 学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

健康的で規則正しい生活を送っている。（食事、睡眠、運動など）（生徒）

設問9 学校は、「換気の確保」や「手指衛生の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

「換気の確保」や「手指消毒」など、感染症対策を意識して活動している。（生徒）



保健管理に関する質問では、全体的には肯定的回答が高かったが、保護者の回答に若干の低下が見られた。また、設問8の生徒回答が30%の否定的回答になっていることについては昨年とほぼ同じ結果であり、改善が見られなかった。

新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、特別な対策が取られなくなったことの影響があるかもしれない。保健委員の働き掛けや、「保健だより」などを活用した啓発活動を通して、生徒自身が規則正しい生活を意識し、具体的に実践できるような指導を工夫していきたい。また、食事や睡眠、ゲームやスマートフォンの使用などについては家庭の協力が不可欠であるので、今後も連携を図っていきたい。

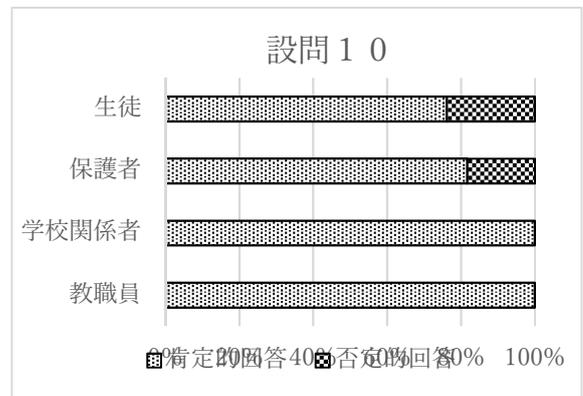
⑥ 特別支援教育について

設問10 学校は、誰もが学びやすい学習環境を提供しているかという視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

学校は、一人一人の個性に応じた配慮や指導、アドバイスを行ってきている。(生徒)

特別支援教育に関する質問では、生徒の肯定的回答が向上したものの、保護者の肯定的回答は昨年度よりも低下した。

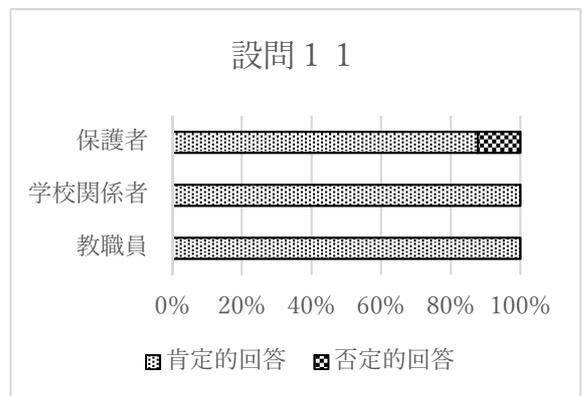
全ての生徒が学びやすい授業をつくるために、指示の伝え方や板書のしかたの工夫、生徒一人一人に応じた適切な課題の準備、共感的な人間関係作り、定期的な教育相談の実施などを今後も続けていきたい。



⑦ 組織運営について

設問11 学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

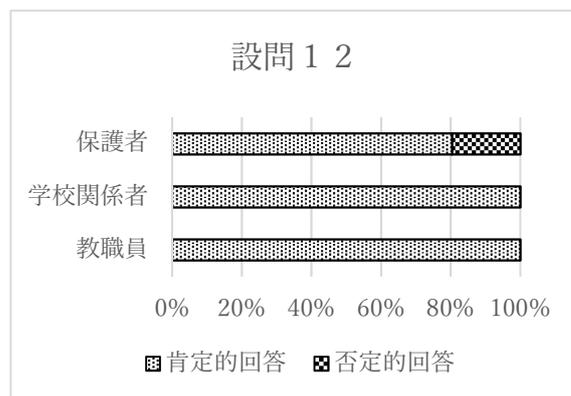
組織運営に関する質問は、昨年同様高い評価を得ることができた。教職員同士が良好な組織関係の中で日々の活動に専念できることが、学校・学年・学級の雰囲気となっている。今後も、安心感を感じることでできる組織であり続けるよう努力するとともに、生徒の変化に素早く気づき、教員が一枚岩でそれに対応できる組織づくりを進め、肯定的回答の向上を目指したい。



⑧ 研修について

設問12 学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に努力や工夫をしている。(教職員、保護者、学校関係者)

研修に関する質問は、昨年よりも肯定的回答が低下した。保護者からは『職員研修は保護者から見えないので評価アンケートで答えにくい』というコメントも多く、質問の聞き方に苦勞した。教育課題に対応する技能を高めるためにも研修は重要であり、研修が生徒の指導に役立つ必要なものであるということを認識し、授業改善の『見える化』に努めたい。

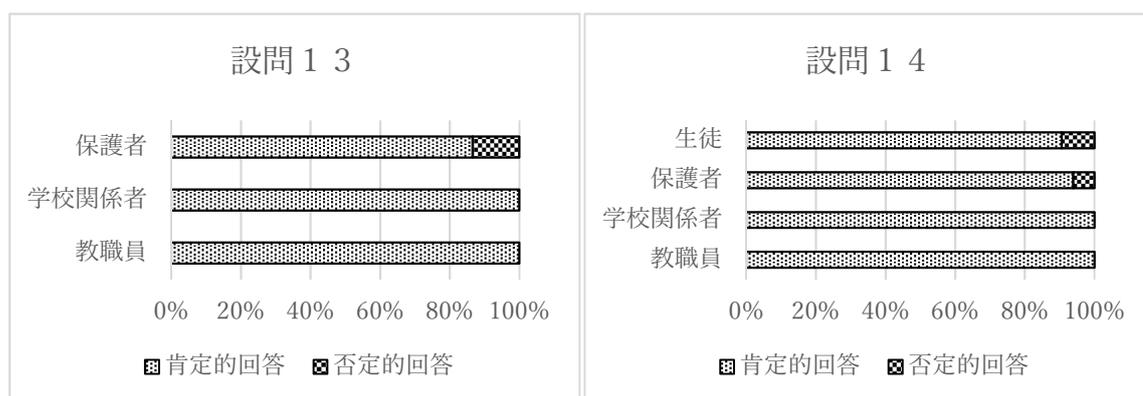


⑨ 保護者・地域との連携、情報提供について

設問 13 学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問 14 学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、積極的に情報を発信している。(教職員、保護者、学校関係者)

学校は、学年・学校だよりやホームページ等により、積極的に情報発信してくれている。(生徒)



保護者・地域との連携に関する質問では、保護者の肯定的回答が87%と昨年より若干低下したものの、設問 14 では94%と高い回答を得ることができた。行事などを通して学校の様子を知っていただけていると考える。

今後もホームページや「学校だより」をはじめとする多様な手段で積極的に情報発信し、より強い連携・協力のあり方を工夫していきたい。

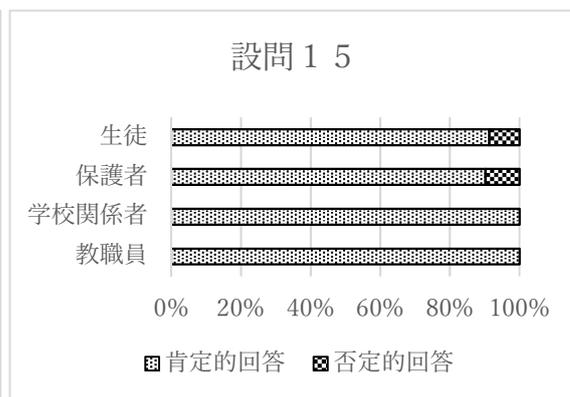
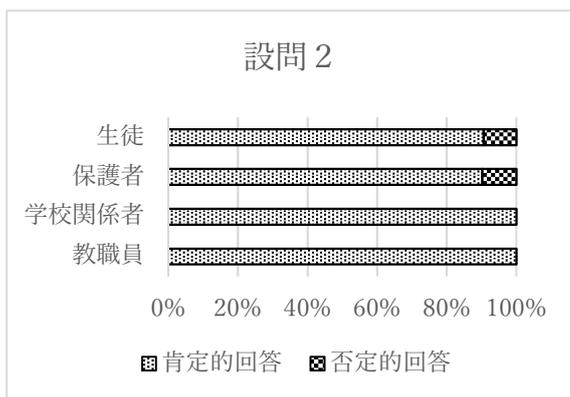
⑩ 教育環境の整備について

設問 2 学校は、教科等の指導においてタブレット端末を活用するなど、効果的にICT機器を活用している。(教職員、保護者、学校関係者)

タブレット端末の活用は、思考・判断・表現する力を伸ばすのに役立っている。(生徒)

設問 15 学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。(教職員、保護者、学校関係者)

学校の学びの環境(展示物、掲示物の充実など)は整っている。(生徒)  
教育環境の整備に関する質問では、昨年同様に高い評価を得た。ロイロノートや



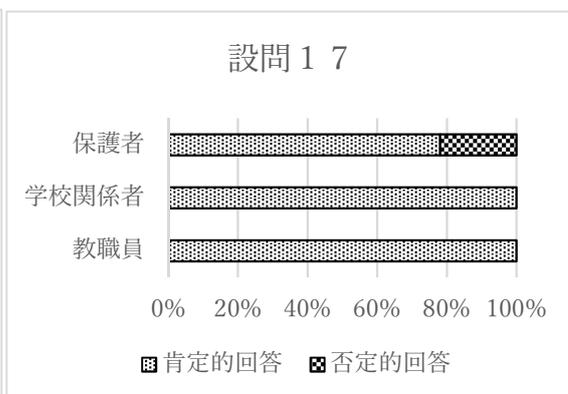
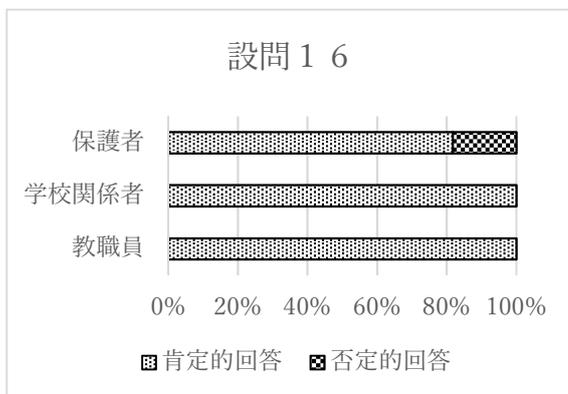
E I L S など、本校の I C T 活用率は市内でもトップクラスであり、生徒用端末の活用が積極的に行われている。全国学力・学習状況調査や愛媛県学力診断調査など C B T が普及しており、今後も全ての教科で積極的に I C T 活用を進めていきたい。

⑪ 幼保小中連携について

設問 16 学校は、小学校と連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。(教職員、保護者、学校関係者)

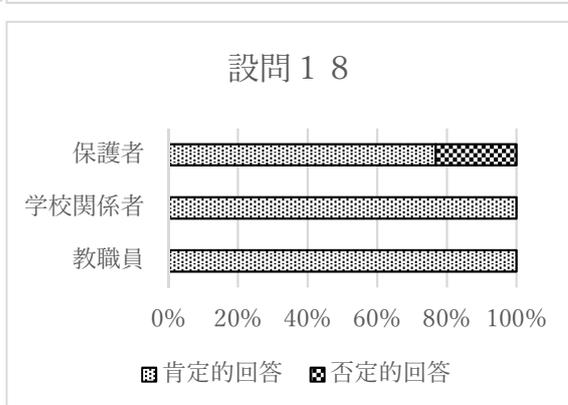
設問 17 学校は、教育の質の向上のために小学校と連携し、系統性を重視した学習指導を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問 18 学校は、小学校と連携し、児童生徒に対する理解の促進や、児童生徒間の相互理解の促進を図っている。(教職員、保護者、学校関係者)



幼保小中連携に関する質問では、各設問ともに保護者の肯定的回答が昨年よりも向上した。

小中間では、生徒指導や交通安全、危険場所、非常変災への対応、学校行事の実施時期等に関する情報交換を日常的に行っている。また、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて、同一メーカー・同一商品の夏・冬体操服を採用し、順次導入している。生徒への学習指導に関して



は、発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を小中学校合同で作成し、それを活用している。毎年度夏休み中に、小中全ての教員が参加して、小中連携研修会を開い

ている。今年度は、教科と教科外のそれぞれにおいて、年間の指導計画や指導方法について情報交換し、小中連携の在り方を探った。来年度は、参観日等を活用して、小中教員相互の授業参観を促進したい。

これらの取組については、ホームページや学校だよりを通して発信していくよう努めていきたい。

### 3 おわりに

今年度も学校評価アンケートをオンラインで実施した。保護者回答率は50.9%であった。昨年は2重回答をできなくするためのログインを必須にしたため26.5%という低い回答率になってしまったが、今年度は個別懇談会などの機会にも回答をお願いしたので、回答率が改善した。

処理の簡素化や働き方改革のためにもC B T化が必要であるので、今後も皆様のご協力がいただけるよう取り組んでいきたい。

今回の学校評価アンケートから得られた結果を参考にしながら、保護者・地域・教職員がしっかりとチームを組み、「ふっと」笑顔のこぼれる「ほっと」な湯山中学校を、「はーと」のあふれるあたたかな湯山中学校を実現し、教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」を目指していきたい。